

鎌倉極楽寺・浜田頓坊 - 甘辛都逸ほのほのラビ" 156

《才24回 極楽寺・稲村ヶ崎 アート・フェスティバル》

◇ゴトゴトと 江の電ゆつくり カーブを曲がる

2年半ぶり フェスティバル

◇千エロヤ ジャズライブ 別荘・史跡

スペシャル イベント 10日宙

◇「浜田さん？」 「極楽とんぼ」に

確認電話 嬉し口ね ハンバカ屋

- ◇ ワイン一杯、いつものように
お昼ハンバカ 佻笑九鬼
- ◇ 江戸の文化は 鎖国の時代
庶民中心 花咲いた
- ◇ あのピカソ、ドイツがスペイン
爆撃を機に パリで描いた "ゲルニカだ"
- ◇ ウクライナ ロシア攻撃 どこかの誰か
確リキャンバス 残さんか
- ◇ フィンランド やはりNATO
加盟検討 そうだろな

◀ 日本を明るくした遍路菩薩

どど一坊のはなし 府中山人編

「叔父さん！わたしや江戸へ出て、日本一の
芸人になるつもりだ」

「貴公のようなやぶ医者^{いしや}のせがれか、そんな
なほの^{なほ}ものになれるものか」と言われたの
で、都々^{いしや}一坊は三味線を取ッ

ん 親かやぶならわたしもやぶよ

やぶにもウグイス啼くわいな

との返歌をやつた。そして叔父から一両二

分の路銀をもらい旅に出た。「都々一坊扇歌」

柳生四郎編 筑波書林 (1986年6月刊)

(最近ほぼほとんど「都々逸」と書くの

だが) あえて原文のままにした)

(1804 ~ 1852)

最盛期には江戸の寄席を掛け持ち、一日に
7 ~ 8軒稼いでいた、と人名辞典にある。

◎何かとお世話様です。東京・小泉博昭
氏 波長が合いますね。



④

④